

令和4年度(2022年度)第3回長房中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	令和4年(2022年)7月30日(土)9:30~12:00
場所	長房小学校 プレイルーム
出席者	<p>参加者：宇田、菅野、清水、鈴木、塚本、仁科、西山、野副、本堂、松崎、松葉、森、森本、山陰、渡辺</p> <p>高齢者あんしん相談センター長房：古座野</p> <p>シルバーフラット相談室長房：光富</p> <p>第1層生活支援コーディネーター：今泉</p> <p>はちまるサポート長房：河瀬</p> <p>八王子地域 PAL-ETTE：雑賀、海津</p> <p>デジタル推進室：倉田</p> <p>防災課：澤、生亀</p> <p>環境政策課：峯岸</p> <p>未来デザイン室：野田、安齋、牧瀬</p> <p>(株)RPI：岩崎、伊藤、吉川</p>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度(2022年度)第3回長房中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1-1 八王子市デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進計画(概要版) ・資料1-2 DXとは何か ・資料2-1 八王子市ゼロカーボンシティ実現に向けて ・資料2-2 はちエコポイント ・資料2-3 環境市民会議募集チラシ ・資料3 地域防災に関する取組 ・「東京都家庭のゼロエミッション行動推進事業」パンフレット ・「市長と語る」パンフレット ・令和4年度(2022年度)第2回長房中学校区地域づくり推進会議議事概要

1 開会

未来デザイン室から挨拶。

2 本日の議題確認

会議資料をもとに、本日の検討事項を確認した。

3 議題

(1) 共通テーマに関する情報を共有しよう

会議資料をもとに、地域づくり推進会議(以下、「推進会議」という。)として取り組む共通テーマのうち、「DX(デジタル・トランスフォーメーション)」「カーボンニュートラル」「地域防災」について、担当所管課から説明し、質疑応答を行った。各テーマに対する参加者からの主な質問は、以下のとおり。

<DX>

・質疑応答なし

<カーボンニュートラル>

- ・説明のあった市の取組「緑のカーテンコンテスト」について、配布資料に記載はあるか。
「資料 2-2 はちエコポイント」に記載がある。(環境政策課)
- ・エコアクションポイントで交換できる商品は、記載されている商品以外にあるか。(未来デザイン室)
毎年、商品は変更している。記載されている商品以外には、エコスポンジのようなものもある。何回も使えてゴミを減らすもの、自然に優しいもの、八王子ゆかりのものを中心とした品揃えとしている。
(環境政策課)
- ・はちエコポイントは、複数人で合算して申請することはできるか(未来デザイン室)
合算は現状行っていない。(環境政策課)
- ・八王子市の現況のデータとして、HFCsの排出が8%となっている。CO2 に比べ、温室効果がすごく高いHFCsの削減も重要ではないか。国が法改正しているなか、これに対する取組はあるのか。
HFCsの削減については、市独自の取組を行うことが難しいため、国や都と連携し対策を推進していく。(環境政策課)

<地域防災>

- ・「令和元年台風第 19 号」では、高尾山の観光客の大勢が陵南中学校に避難した結果、トイレのタンクが壊れてしまう等の問題が起きた。今後は、防災について市と連携しながら、観光地も含めて避難所運営を考えていくべきではないか。
- ・温暖化に伴い、災害対策は強化する必要がある。自助はもちろんだが、近年の災害発生の際、ハザードマップがサーバーダウンで見られなかったこともあった。情報発信基盤を強化して欲しい。
現在は、民間業者に委託し、緊急時にはミラーサーバーを作成するといった仕組みを構築している。今後も想定できない災害が発生する可能性もあるため、順次対応していきたい。(デジタル推進室)
ハザードマップ自体のデータ容量を軽くするような取組も平行して進めている。(防災課)
- ・「令和元年台風第 19 号」において避難指示解除の翌日、長房小学校では 500 名程の避難者があり、ごみ・たばこの吸い殻の散乱、トイレの詰まりなどが問題となった。そもそも、どうして避難者がここまで増えたのか。
市からは、防災情報メール・エリアメール・防災無線での情報発信を行った。併せてテレビのデータ放送でも避難所の活用について放映されており、避難者が増えた一因と考える。最近では、避難所の活用に関する発信ではなく、まずは安全を確保しようという発信に変化している。(防災課)
- ・長房地域では、避難所となりえる施設(市民センターや富士森高校)が浸水区域にかかっており、避難所として使用することができないため、住民協議会のなかで防災をテーマに検討を進めている。
市においても、大規模風水害時の緊急避難先として、協定を結んでいるスーパーアルプスを考えている。今後、地域のなかで防災に関する検討をしていく際には、必要に応じて情報提供を行ってきたい。(防災課)

(2) アクションプランを検討しよう

会議資料をもとに、「地域コミュニティの活性化」につながる具体的な取組方法について、これまでの活動の中で既に取り組んでいることや工夫、今後に向けたアイデアをグループに分かれて検討し、その後、全体に発表した。全体への報告概要は以下のとおり。

<A グループ>

- ・交流していくためには、顔と名前を覚えること。
【新しい方との交流】

- ・都営団地の中では、掃除の日を設定して住民同士の交流を実施。地域活動の担い手づくりの場としても活用している。
- ・転入者は増えているが、挨拶する方はほとんどいない。こちらから挨拶すると会釈する程度。
- ・町会長がサロンや祭りを主催し、そこにみんなが集まることで交流が生まれている。休みの日の開催だと老若男女問わず来てくれる。新しく来た人も自然に顔や名前を覚えられる。

【新たな交流】

- ・今後もコピー長房をいかして交流を広げていきたい。
- ・この推進会議自体が新たな交流であり、仕事関係・職場以外の交流が生まれている。特に若年層や現役世代には、この場での交流がとても刺激になっていると感じる。

【日常的な交流】

- ・委員会や役員会、PTA での定期的な交流がつながりとなり、日常的な交流のきっかけとなっている。

【課題】

- ・回覧板が回ってこない。新たに引っ越して来た人との交流や地域活動の担い手もいない、または少ないと細かい課題が数多くある。
- ・防災についても、縦割りではなく、連携してDXもからめた支援が必要。小学校に授業用として配布されているタブレットも、災害時には一時的に使用することはできないのか。電子機器を使うのであれば、日常的にインターネットに繋がられるように整備していくことが必要。

<B グループ>

- ・大前提として、コロナの影響で人とのふれあいの機会となる様々なイベントが中止になっている。大規模なイベントが中止になっている状況では個人的な取組も難しい。コロナの状況は予測できないが、まずは既存の取組を再開させることが大事。
- ・身近な取組として町会・自治会では、通学路での見守りや挨拶活動を実施しているほか、小学校の保護者による旗振りには高齢者のボランティアも協力してくれている。
- ・城山手自治会では、祭り、グラウンドゴルフ、ウォーキングなどの多世代が集まるイベントを行ってきたが、数年間中止となっている。子どもたちから好評だった小学生対象の卓球教室も実施できない状況が続いている。
- ・子ども会では、久しぶりにじゃがいも掘りを実施。ボランティアの協力もあり約 80 人が参加した。
- ・コロナによって地域活動が実施できないため、各団体のメンバーや代表者の入れ替わりによる取組の継承が課題になっている。

2つのテーブルの意見について共通することは「つながり」である。地域人材を集めることや、コロナによって活動できない団体の継承といった課題に対してどのように取り組んでいくのかを、第4回推進会議において、共通テーマを交えながら検討を深めていきたい。(未来デザイン室)

(3) 部会活動の共有と「運営担当」の決定

会議資料をもとに、部会運営についての情報共有及び各部会から2名ずつ「運営担当」の選出を行い、その後、全体に発表を行った。全体への報告概要は以下のとおり。

<地域施設>

- ・コピーのモニターを使った情報発信に関し、テスト実施やサンプル動画の作成を行っている。
- ・今後、どんなタイミングで、どんな情報を発信するか、それを誰が決めるか等を決定すれば、施設での発信はすぐ実現できる。
- ・モニターでの発信を続けることで、「ここに来れば地域情報が見られる」という意識が住民のなかで

定着すれば良いと考えている。

・運営担当は、本堂氏、森氏に決定。

<SNS>

・スマホ、パソコン、タブレットを情報使用した発信として、まずはインスタグラムでの発信が決定した。アカウントも開設済。

・インスタグラム以外にも SNS がたくさんあるので、違う媒体にも同期して情報発信できれば良い。発信する内容は同じでも、様々な媒体からの発信を進めていきたい。

・インスタグラムを開設したが、今後は見る人を増やすことが大切。「面白そう」と興味を持ってもらうため、アカウント名も工夫が必要。

・全員が投稿できるようにしていきたいが、誰が管理するか、投稿の順番、内容に関するルールなどの整理も大切。

・発信の基盤の準備はできたので、内容が決まれば、発信できる状態にある。

・運営担当は、菅野氏、仁科氏に決定。ただし、運営担当は輪番制とするため、その都度運営担当を決定していく。

<地域イベント>

・都営長房団地への周知に向けて防災訓練を考えていたが、コロナでイベントが縮小傾向にあることを踏まえ、高齢者あんしん相談センター長房を中心に実施している「笑いヨガ」(月2回30人くらい参加、継続性あり)、「の～んびりテラス」(1回目を実施、今後も継続予定)の活用を検討していく。

・コロナにより町会活動等が難しいなかで、高齢者あんしん相談センター長房と協力して取り組むことが有効と考えている。今年は、東アパートで七夕、ハロウィンを実施予定。これらとの連携など、今の状況でできることから進めていきたい。

・運営担当は、野副氏、鈴木氏に決定。

(4) 令和4年度(2022年度)の活動予算

会議資料をもとに、今年度取り組んでいる「優先的アクションプラン」は「地域主体でできること」「お金がかからないこと」を前提に検討していたが、活動の中で必要な消耗品等については、未来デザイン室で確保しているため、随時連絡を頂きたいこと、今後も推進会議としての予算の確保に努めていく旨の説明を行った。地域施設部会では、配布資料等について、データを市に送付いただき、市で印刷して高齢者あんしん相談センター長房に送付し、部会で配布するという形で進めていることを報告した。

(5) より良い推進会議とするための意見交換・情報共有

・「シルバー見守り相談室」が「シルバーふらっと相談室」に名称を変更した。高齢者相談を受け付けている。ドリンク等も無料で、子育て世帯も相談可能。フードパントリーもやっているの、一度来てほしい。(シルバーふらっと相談室)

・新たな参加者に関する準備状況を未来デザイン室から報告。今年度の追加参加者は、幼稚園保護者、消防団、保護司、地域住民である松崎氏の4名でよいか。

異議なし(参加者)

・随時事務局にて手続きを進めていく。(未来デザイン室)

閉会

第4回地域づくり推進会議の開催日程の確認

第4回:令和4年(2022年)9月3日(土)9:30~12:00

以上